壊れてしまった大事なおもちゃに新しいいのちを！

おもちゃ病院伊都国の **紹 介 記 事**

環境対策支援編

・H21/9 以前の記事は
一部割愛しております
・ この他に子育て
支援編があります

福岡県二丈町　広報にじょう　2008(H20).11.01

どう直すか考えながら作業を進める中学生

二丈中生徒

おもちゃドクター体験

10月9日、二丈中学校3年生16人が、深江保育所でおもちゃドクター体験を行いました。壊れたおもちゃを修理するこの活動は、中学校の総合学習の時間に実施されたもの。ボランティア団体「おもちゃ病院伊都国」に協力してもらい、ドクターの指導で保育所のおもちゃを直します。

戸惑いぎみだった生徒たちは、しだいに真剣な顔になり作業に没頭。「やったぁ直った」「動いたー」など、無事修理が終わったときには感動の声が上がり、生き生きと輝いた顔が見られました。

福岡県前原市　広報まえばる　2009(H21).10.15

「おもちゃ病院」「かえっこ」も登場

おもちゃ交換に子どもたちが殺到

9月13日の環境フェスティバルには「おもちゃ病院」と「かえっこ」も参加し、壊れたおもちゃの修理や、おもちゃの交換会を行いました。

心配そうにおもちゃを差し出す姫島の子ども

「7時の船で、姫島から来ました」というおばあちゃんとお孫さんなど、壊れたおもちゃを持った家族連れが、開院時間前から来場していました。

また、おもちゃ交換会「かえっこ」では、あらかじめ準備されていた修理済みのおもちゃに、子どもたちが群がってお気に入りを探していました。

2009(H21).09.17　糸島新聞(3)

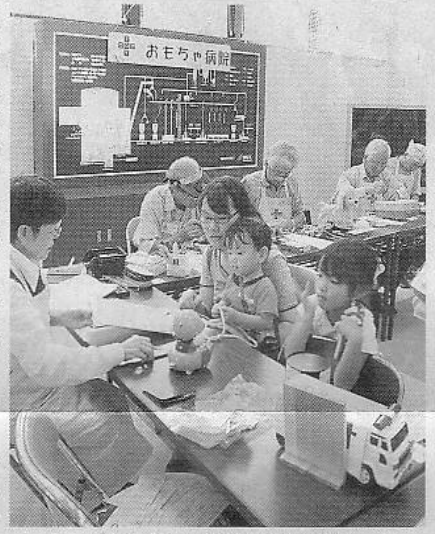
環境フェスにどっと

糸島クリーンセンター

糸島クリーンセンター（志摩町西貝塚）で十三日、環境フェスティバルが開催され、名物イベントとなったフリーマーケットやリサイクル家具の抽選会などを目当てに、多くの糸島一市二町の住民らが訪れた。

環境フェスティバルは糸島一市二町と糸島地区消防厚生施設組合がゴミ減量やリサイクルの推進を目的に開催。大型ゴミだったものが新品同様に生まれ変わった家具、リサイクル自転車が安値で売り出されること、フリーマーケットで交渉しながら買うのが楽しいため、毎年にぎわっている。

このほか、小学生の環境絵画展、施設見学、啓発コーナーでのクイズなど、訪れた人たちが、楽しみながら環境について学んだ。



おもちゃ病院も開催

2011(H23).02.17　糸島新聞(1)

おもちゃを大切に

こども環境フェスタ

おもちゃドクターが修理に活躍

おもちゃの修理や遊ばなくなったおもちゃの交換をする「こども環境フェスタ」（おもちゃ病院伊都国主催、NPO法人食が紡ぐいのちの輪共催）が十三日、糸島市役所本庁で開催され、約二百人の親子が訪れた。

おもちゃ病院では波多江保彦代表らドクター九人とナース一人が、子どもたちが大切にしているおもちゃの修理を行った。

おもちゃを交換する〝かえっこ〟に、お父さんの笹井一博さん(44)と訪れた、博喜君(7)は十個のおもちゃを持参し「いろいろ欲しいのがある」と、真剣な表情でおもちゃを選んでいた。

読売新聞　福岡西かわらばん

発行所　読売新聞西部本社　〒810－8581　福岡市中央区赤坂1－16－5　電話(092)715－4311(代)　www.yomiuri.co.jp

2011年(平成23年)　2月26日土曜日　第220号

世界一　日本一　九州・山口一

ぼくのおもちゃ全快

糸島の「病院」患者続々

糸島市内を中心に活動しているおもちゃ修理のボランティア団体、おもちゃ病院伊都国（波多江保彦代表）は13日、同市前原西の市役所市民サロンで「こども環境フェスタ」を開いた。おもちゃドクターの9人が持ち込まれたおもちゃの〝診断〟と〝手術〟を行った。

先生9人　笑顔うれしい

定期開設　無料手術

この日のおもちゃ病院には首が取れた人形や手押し車、ミニカーなど約20個が〝来院〟。中学の技術家庭科教諭や船舶機関士などの経験者で、工作を得意とするおもちゃドクターたちが故障箇所や原因を究明し、修理にあたった。

おもちゃを持ち込んだ子どもたちは、最初はおもちゃがバラバラに分解されると、不安そうな表情。ドクターたちが内部のさびを取り除いたり、壊れた部品を他のもので代用し、作り直したりして、よみがえらせると、目を輝かせて見入っていた。

波多江代表は「子どもたちは壊れて直ったおもちゃはもっと大事にするようになる。思い出がつまったおもちゃを修理して、手渡した時の『ありがとう』の笑顔がうれしい」と話していた。

▲おもちゃの〝手術〟に見入る子どもたち（左端は波多江代表）

部品を分解したり作り直したりするおもちゃドクターたち

また、同市内のNPO法人「食が紡ぐいのちの輪」もおもちゃを通して、物を大事にする心を育んでもらおうと、遊ばなくなったおもちゃを持参すると、ポイントに替えて、好きなおもちゃに交換できる「かえっこ」も実施した。

おもちゃ病院の定期開設は▽同市波多江駅北の波多江公民館（奇数月の第2土曜日）▽同市前原東の市子育て支援センターすくすく（毎月第4土曜日）で、午前10時～午後2時。毎回先着15個（電子ゲーム機や銃器類は除く）。修理は無料だが、電池代などは実費。ホームページ（http://www.geocities.jp/omotya_itokoku/）から修理予約もできる。問い合わせは波多江代表（090・9139・7186）へ。

おもちゃの「かえっこ」も行われ親子連れでにぎわう会場

西

読売新聞 福岡西かわらばん

発行所　読売新聞西部本社　〒810-8581　福岡市中央区赤坂1-16-5　電話(092)715-4311(代)　www.yomiuri.co.jp

2012年(平成24年)　2月11日土曜日　第265号

世界一　日本一　九州・山口一

再生おもちゃかわいがってね

施設で再活用

壊れたおもちゃを修理する糸島市のボランティア団体「おもちゃ病院伊都国」(波多江保彦代表)は、使われなくなったおもちゃを引き取り、再生させて、育児施設や福祉施設に寄付する活動「おもちゃ箱」を1月からスタートさせた。スタッフたちは「不用になったおもちゃが再び活躍できる場を作りたい」と提供を募っている。

使わなくなったおもちゃの提供を呼びかけるスタッフ（提供写真）

思い出詰まった人形、ゲーム…修理の「病院伊都国」橋渡し

活動は昨年の秋、修理依頼者から「施設に寄付してほしい」と、段ボール箱いっぱいの不用なおもちゃが持ち込まれたことを機に企画が持ち上がった。「おもちゃが集まるかが心配で、当初はちゅうちょした」(波多江代表)が、同市前原東の子育て支援センター「すくすく」内に常設の受け付けボックスが置かれるなど協力を得て、活動実現にこぎ着けた。

昨年秋に持ち込まれたおもちゃの中には壊れたものもあったが、スタッフが直し、先ごろ第一弾の10点ほどを同市内の子育て支援センターと健康福祉センター計4か所に寄付した。今後も両センターが対象だが、保育所や児童クラブ、福岡市西区橋本の子どもプラザなどにも寄付を検討しているという。

提供者に「かえっこポイント」

提供はすくすく内の常設ボックスのほか、おもちゃ病院の定期開設日や出張イベント会場でも受け付けており、提供すると各地で開かれているおもちゃの交換イベント「かえっこ」で使えるポイントが発行される。

波多江代表は「壊れて直らなくても、分解すれば他のおもちゃの修理部品として再利用できます。大事な思い出が詰まったおもちゃに、再び日の目を見せてあげませんか」と呼びかけている。

おもちゃ病院伊都国　糸島市の波多江公民館(奇数月の第2土曜日)とすくすく(毎月第4土曜日)で、ともに午前10時～午後2時。詳しい問い合わせはホームページ(http://www.geocities.jp/omotya_hokoku/)または波多江代表(090・9139・7186)へ。

おもちゃ病院の3R活動

環境省事例集に掲載

環境省は、糸島市のおもちゃ修理のボランティア団体「おもちゃ病院伊都国」(波多江保彦代表、26人)の取り組みを3月に発行した2016年度版の「3R活動先進事例集」に掲載し紹介した。

同団体は昨年、循環型社会形成の推進功労者として環境大臣表彰を受けた。同表彰は廃棄物の発生抑制(リデュース)、再利用(リユース)、再生利用(リサイクル)に取り組み、顕著な成果があった個人や企業、団体の功績をたたえるもの。

「おもちゃ病院」は環境の3Rをもう一つのR(リペア・修理する)で支えていることになるとして紹介されている。波多江代表は、今回の紹介にあたりイラストを作成し、その仕組みを分かりやすく解説している。

同会は、年約30回「おもちゃ病院」を開催している。また、小中学校に出向いて行う授業「考えようエコな生活」で、自宅から持ち寄った壊れたおもちゃを自ら修理する体験学習を指導していることも紹介している。

また、おもちゃ修理とおもちゃの交換会「かえっこ×おもちゃ病院」、提供された個人のおもちゃを点検整備して福祉施設などに寄贈する「おもちゃ箱」の事例も掲載された。

2017(H29).05.18 糸島新聞 (3)